

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／(株)ドモン企画



お正月おめでとう

社会福祉法人 光の子どもの家

年頭所感

コリンントの信徒への第二の手紙（五章十七節）

理事長 福島 勲

伝道の書に「日の下には新しいものはない」、物事は繰り返しであるとある。（一章九節）時間の推移や同質のものの更新でなく、神による新しさを尋ねねばならない。出エジプト記では、過越の出来事の時、神はモーセとアロンにこの月を初めの月とし、一年の正月とせよと言わされた。（十二章二節）神の恵みの業の時を正月にするなど、モーセたちはまさしく宗教的民族である。

「誰でもキリストにあるならばその人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った。見よすべてが新しくなったのである。（第二コリント五章一七）古純一郎先生の話に、痛く感激した。變化向上のない自分にひどく失望し不安であった。やがて「人の義とされるのは法律によるのでなく、信仰によるのである」（ロマ・三章二八）との句に不安は解消された。

古いものが過ぎ去つて新しくな

たと言ふとき、それは神の側の保障であり承認である。キリストによって新たに造られたということは、キリストを信じることによる救いの約束であり保証である。

古いものが完全に新しくなるのは、神の世界の出来事であり、甦りの世界の出来事である。神の確かな約束である故に、未来は現在として、あるいは現在完了として表現される。そうなるであろうが、そうである、そうなつたということである。

田河水泡の人生おもしろ説法の中に、「びりでもいいから」という一文がある。伝道集会で佐古純一郎先生の話に、痛く感激し励まされ、自分一人でもいいから信仰を続けようと決心した

けれど古びている。

たとある。田河水泡の謙虚な表現だが、おそらく救いの秘義にびりも先頭もないものと思われる。

我々は内に新しくされたが外

天地創造は宇宙でのピック・パンによつて起つり、このよう

な爆発は繰り返される。創造當初の一日は五時間であつた。宇宙は膨張している。月は遠ざかり、地球の自転が遅くなり、一日が二八時間にもなる。そして幾億年後には地球は存在しないという科学者がいる。神はサイコ遊びはしないとはアインシ

ュタインの名句だが、宇宙には法則があり、宇宙滅亡もどうやら杞憂ではなさそうだ。戸毎を訪問し、地球は滅ぶと脅し文句を並べて、小冊子を売り歩きキリスト教と自称する一派の人々の言うことも、あるいは幾億年か後に実現するのかも知れない。

しかし、自然現象からみる終末論には迫力が伴わず、文学的数字が切実感を遮つてゐるが、我々は誰もが死に直面している。悠久の時からみれば、我々の生涯は点にも等しい。それでもこの生は偶然ではない。

言葉にも業にも神によつて新しくされた者としての使命を確信して悔いのない者でありたい。年頃に当たつて、もう一度われら何をなすべきかを確かめたい。

まず、子ねこのうちに基本的な生活習慣をしっかりと身につけさせなければならない。オツパイを飲み始め、餅を食べるようになると、排便のしつけである。毎日少しづつ、根気よくしつけをする。そして、ねこに手がかかるその多さに比例して、可愛さも倍加してくる。その頃、家の中には、おばあさんねこと、親ねこ、五匹の仔ねこの三世代の関係が中心となつて、おばあさんねこには、その役割が殆どなくなつてきていた。家中で自分の役割がないと、自然に今までの力のバランスが変化してくる。おばあさんねこと親ねこ

成 長

施設長 今関 公雄

新年おめでとうございます。新たにしてくれます。もつと率直に言えば、普段は自分の年を忘れて生活していますが、新年を迎えるに及び、自分自身の歳月を再認識させられるのです。

新年は「時」について思いを新たにしてくれます。もつと率直に言えば、普段は自分の年を忘れて生活していますが、新年を迎えるに及び、自分自身の歳月を再認識させられるのです。光の子どもの家について言えば、その最も顕著な現れは、最年長の子が、目前に高校受験を控えていることがあげられます。彼らが入所したときの光景が、昨日のことのように思い起こります。あどけない童顔の少年のものであります。当時は、家庭に事情があつて充足できず、年頃に当たつて、もう一度われら何をなすべきかを確かめたい。

言葉にも業にも神によつて新しくされた者としての使命を確信して悔いのない者でありたい。年頃に当たつて、もう一度われら何をなすべきかを確かめたい。

牧師になるという、私の人生にも大変動をもたらしております。昨年四月より主日礼拝を同信の友と重ねて参り、この地での教会設立と共に展望しつつあるところです。

この小さな群れが、成長してこの地域にしっかりと根をおろし、キリストの十字架と復活を力強く述べ伝えられるようになります。と新年の祈りとしております。

この小さな群れの教会で、そのハンデを負いながら、思い返すにも胸の痛む、深夜にいたる職員との格闘のような学習活動を懸命に続け、高校を望み得る立派な青年でさえあります。

彼らのここでの生活の歴史は、そのまま光の子どもの家の成長の歩みそのものと言えます。その歩みそのものと言えます。職員の成長に支えられて、更なる前進を期す新春でもあります。

「私は植え、アポロは水を注ぐ」、神学を学び、伝道師として訓練の機会を経て、昨年暮れに（第一コリント・三章六～七節）

仔ねこが五匹産まれた。ねこが生まれたということだけで、家中に活気が湧いてきた。何しろ、人間とねこが同居するのだから、人間がそのことによつて影響を受けないわけはない。

まず、子ねこのうちに基本的な生活習慣をしっかりと身につけさせなければならない。オツパイを飲み始め、餅を食べるようになると、排便のしつけである。毎日少しづつ、根気よくしつけをする。そして、ねこに手がかかるその多さに比例して、可愛さも倍加してくる。その頃、家の中には、おばあさんねこと、親ねこ、五匹の仔ねこの三世代の関係が中心となつて、おばあさんねこには、その役割が殆どなくなつてきていた。家中で自分の役割がないと、自然に今までの力のバランスが変化してくる。おばあさんねこと親ねこ

比べて、子育てが下手であった。母親としての自覚が足りないのである。おばあさんねこは、母性をもつて、仔ねこを置きっぱなしにして夜となく寝となく、外

親ねこの方は、歴代の母親に比べて、子育てが下手であった。母親としての自覚が足りないのである。「母親のオツパイにも当然薬がついているから、仔ねこも危ないです。」といふ獸医さんの予言通り、次々に倒れ、仔ねこは最も力の弱い貧弱なのが一匹残つただけであった。

仔ねこは、虚弱だったが故に競争に負け、そのため危うく命拾いし、今ではすつかり成長した。ねこは、虚弱だったが故に競争に負け、そのため危うく命拾いし、今ではすつかり成長した。そして、二匹とも家中で大事にされ、威張つて暮らしている。ことによつたらねこたちは、自分はねこではなくて、人間の仲間だと思つてゐるかも知れない。あるいは、われわれ人間を、ねこの仲間だと勘違いしてゐるかも知れないのである。

エッセイ
ねこ

中島 薩雄（県立高校教諭）

1992年1月1日 第40号

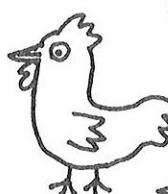
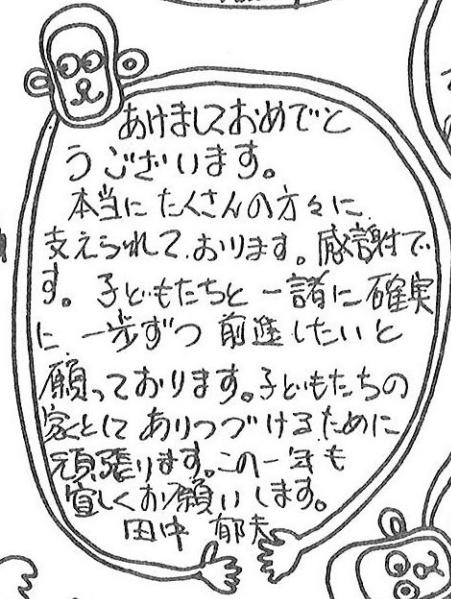
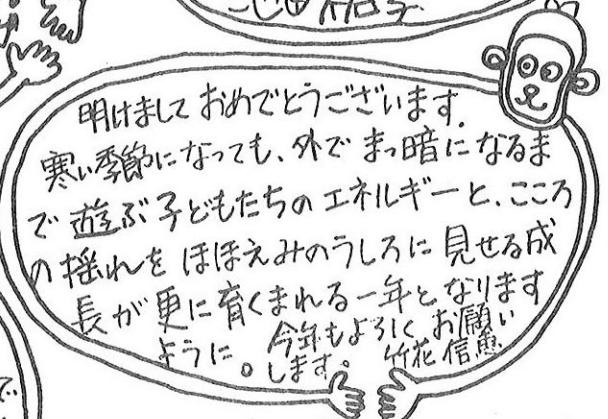
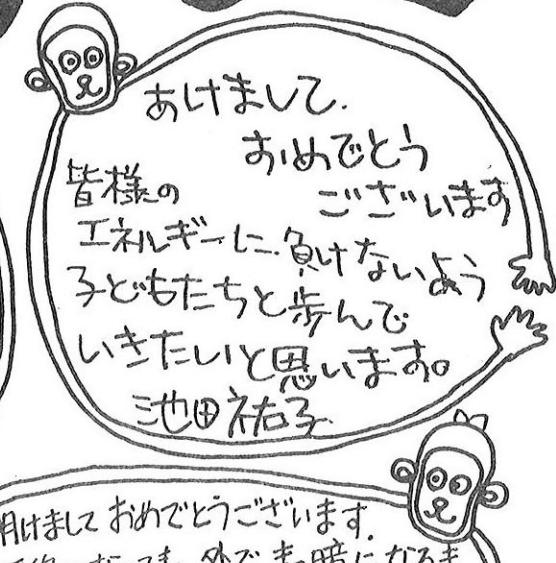
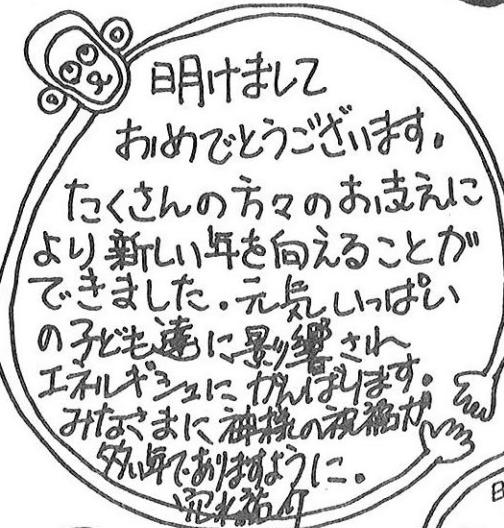
ひかりのこ 召しにふさわしく歩け

ひかりのこ

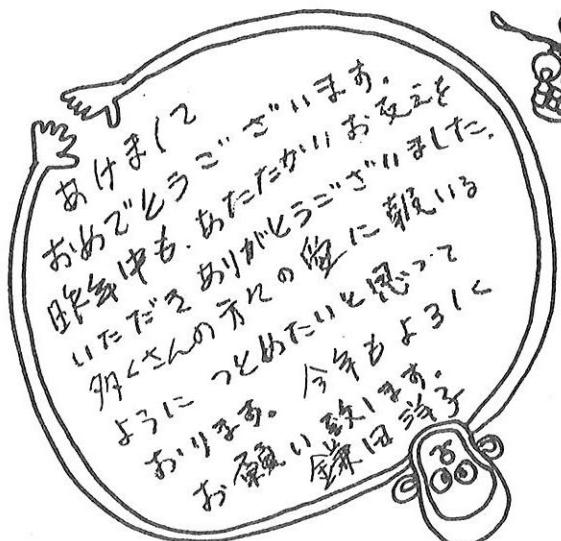
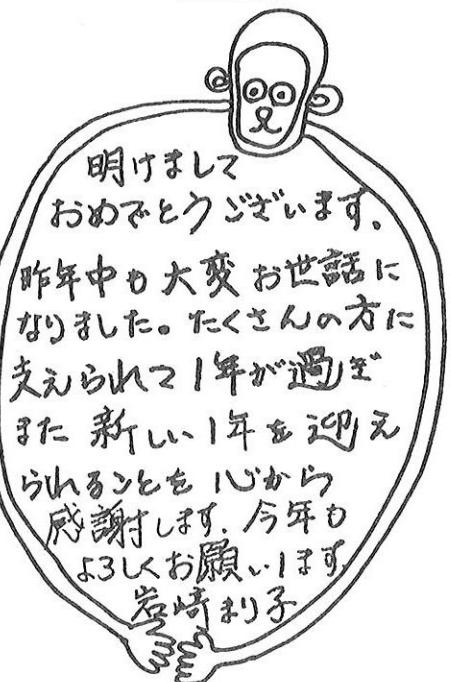
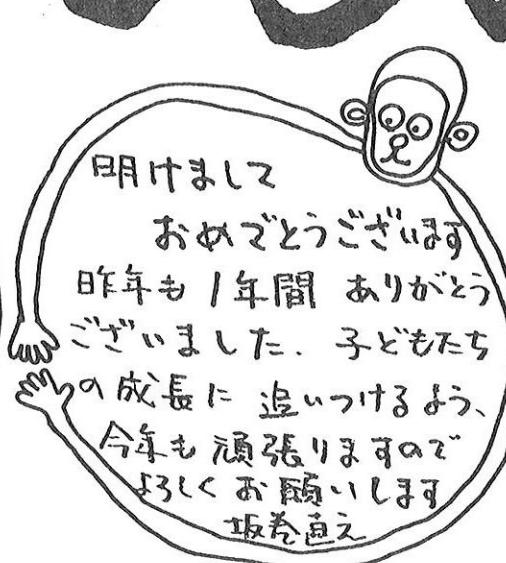
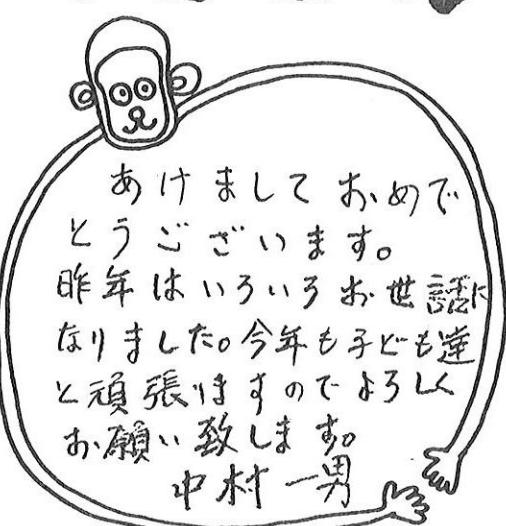
1992年1月1日 第40号

召しにふさわしく歩け

あけまして



おめでとう



あけましておめでとうございます。みなさん おげんきですか。
ぼくは こままわしが好きです。みなさん おしょうがつ な
にしてあそびますか。ぼくは あんこもちときなこもちが すきで
す。みなさんは なにが すきですか。みんなで たのしく す
して いますか。なんのうたを うたいますか。

みんなの ところは ゆきがふっていますか。ぼくのところは
まだ ふつていません。はやくふるといいな。さようなら。
みなさん ところは ゆきがふっていますか。ぼくのところは
まだ ふつていません。はやくふるといいな。さようなら。

一ねんせい うえだ かずし

明けましておめでとうございます。一九九二年になりました。
今年もよろしくお願ひします。

去年の夏、海で遊んだことを思い出します。浮きわを忘れて、な
みのりが大変だったことも楽しく思い出します。また、八ヶだけの
ちよう上に登ったことや谷本先生と遊んだことがうれしかったです。
今年は、きよ年よりも、もつと楽しくすごしたいです。
みなさんも、よいお年をおむかえ下さい。

三年生 水谷 萌季

新年おめでとうございます。今年も、よろしくお願ひ致します。
さて、新年には今年の抱負を持たなくてはその年が始まりません。
私の抱負は、もう少し冷静に物事を見、考え、判断できるようにな
りたいこと。事情をよく理解せず、決めつけ、悪いことに、それ
を根に持つてしまふことを何とか克服する。今年は猿年と言うわけ
でもないが、猿のように笑つて暮らしたいの三つです。ところで猿
は笑いましたかね。どうも私は笑うことが少ないようで、時には、
怒つていると誤解されてしまいそうにさえなるようです。
さて、この年の暮れにはどうなつていますか。

六年生 森 光子

まなざし……

佐藤家

子どもたちの季節

仙道家

謹賀新年。本年もよろしくお願ひ致します。

昨年の九月の終わり頃、二年前に再婚して引き取られて行つた塩

野姉妹が、父と△三人▽で遊びにやつてきました。日々、電話や便
りはし合つていたのですが、会つたのは半年ぶりのことでした。

塩野姉妹にとつて、本当の母ではないということもあって問題も

多く、家に帰る前も、帰つてからも、父も母も、そして子どもたち
も大変な苦労をし、△もうだめだ▽という危機を何回か繰り返し

てきました。それでもご両親が隠さずに真剣に相談に見え、電話で
訴え、何もかも私たちに話をしてくれたので、及ばずながらほんの

少しのお役には立つことが出来、その危機をどうにか解決し乗り越
えてきました。そして、この春まで半年ごとに四人揃つて元気

が重なつて、母が数ヶ月前に家を出ていつてしまい、今は三人で生

活をしていました。四年生になつた望はお米を研ぎご飯を炊き、三年

生の贋も自分で出来ることが多くなつたそうです。「それでも一番
大変なのはお父さんですね。」と私が言うと、「でもね、別れて暮
らし、寂しい思いをするよりはいいからね」と、父。父の一言は、

楽しさを共有することだけが家族ではない、苦しさも辛さも共に負
つてこそ家族であり、その上で一緒に楽しさを共有できるんだ…、
そう自分にも言い聞かせ、訴えているように思いました。

ここには家族・家庭というものを理屈や言葉で理解はできても、現実に味わうことのできない子どもたちが多くいます。そんな子どもたちの家族に、家庭に一步でも近づけるように…。力を尽くし
て願いつつ八回目の春を迎えます。

新年、明けましておめでとうございます。

昨年中は、沢山のお励ましと応援を、ありがとうございました。

本年も、ご指導下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。

自覚まし時計の音が、また 大変不快に聞こえてくる季節となりました。やはり、冬の朝の苦手な、山口兄弟とその担当者です。

入所して二回目の冬を迎える山口兄弟のことは、昨年の本紙に記しましたが、あの頃を思い返すと段違いに穏やかな朝を迎えられます。

この頃です。この一年の兄弟の成長には目を見張るものがあります。

去年度の啓二は、とても不安定な日が続き、私の受容が不足して

しましたが、あの頃を思い返すと段違いに穏やかな朝を迎えられます。

困らせてばかりの日々でした。

もうすぐ年長組になるというある日、「ぼくはもうばら組になる
から、ぐずぐずしないよ!」と、自分から宣言し、その日から全く
といえるほど、訳の分からぬぐずぐずが消えてしまいました。

幼稚園でも「とても変わりました。みんなの人気者で、啓二君を

みんな大好きで、すぐまねをしたりするんですよ」といつてお誉め
下さり、喜んで登園するようになりました。啓二のお友だちのお母

さんから、お家に遊びにきて欲しいとお呼ばれし、「啓二君のおか
げでウチの子が外で遊べるようになりますよ。ウチの子は啓二
君が大好きなんです」とまで言つていただきました。お友だちも、

「ぼく、ずっと啓二君と離れないよ!」と言つてくれます。

足りないことや、やりすぎ、失敗だらけのかかわりなのに、いつ

の間にこんな成長を遂げたのでしょうか。家ではお兄ちゃんに助けられ
てばかりの啓二もたくさん外で頑張っています。お友だちや、そ

のお母さんに、先生に、そして啓二に、心から「ありがとうございます」と感
謝したい気持ちでいっぱいです。

竹下 由香

夏やお正月には帰省をせずに受験に備えることを覚悟している睦
男に、解決しなければならない課題は多すぎるようにも思えます。
「ここに来たとき、照子さんを先生つて呼んじやつたんだよな」
入所の頃の話になると決まって睦男がする話です。私は先生ではあ
りません。睦男や子どもたちにとって、私は何になれのかが試さ
れ、なけなしの力が暴かれるような年になりそうです。石毛 照子

育ちゆく子らと 十

秋本 光代

大きく揺れながら思春期の入り口をさまよつてゐるようです。

そんな將志に、この六月、母が現れました。丁寧に調整はしましたが、將志は、体を硬直

日常生活の中で、優しくいるのが怒るからと、マイナスを隠してしまうこともしばしばです。

「もういいよ！」

「そんなこと言つてんじゃんだから」。「だつて……」

「もういいよ！」

新年、明けましておめでどうございます。子どもたち共ども、この一年の成長を獲得することが出来ますよう努力を続けます。これまで同様、暖かいご支援をお願いいたします。

思春期直前の十才前後は、関わり方によつて敏感に影響を受け、その影響がその子の生涯を決定しかねない、とても大切な時期だと言われて、関わつてきました。性別や生活歴などによつて各自違うわけですが、幼いときから関わつてきている子には、今までの自分の関わり方や、これからどのようにしていけばいいのか、また様々なことの中でも、子どもからも、職員としてのあり方や力量なども試されるようになります。たまらなく不安になります。

今担当している子どもたちが年が一桁から二桁になる過渡期である、三年生だった頃をどう過ぎたのかよく思い返します。六年生になつて光子は、

みんなに追いつき、今はしつかりした四年生になりました。

女の子は目に見えるようにその成長が確認できましたが、今一つ男の子ははつきりしません。

滋の四年生は、その年に私の担当に変わり、私との関わりに全力を尽くしたのでしよう、余裕のない時期にしてしまいました。いつまでも消化しきれない甘えを引きずりながら、五年生としてしつかりしようと頑張つています。取り組み残した大きさをどんなに後悔しても九才是戻つてしまへん。これから滋の心を受けとめる努力をする事が滋への謝罪のように思えます。

三才から担当し、一桁の最後の年の九才真っ直中の將志は、

長所短所も把握して、配慮を尽くしてきたつもりだつたのに、

までくそぶつていたモヤモヤをかき消し、明るくなりました。

將志の家族関係は複雑な問題を含んでいても、ともかく母はいて、会いにきてくれたことは、もつとも重く辛い思いの一回。いつまでも消化しきれない甘えを引きずりながら、五年生としてしつかりしようと頑張つています。取り組み残した大きさをどんなに後悔しても九才是戻つてしまへん。これから滋の心を受けとめる努力をする事が滋への謝罪のように思えます。

三才から担当し、一桁の最後の年の九才真っ直中の將志は、長所短所も把握して、配慮を尽くしてきたつもりだつたのに、

私にとつては末っ子で、そんなに扱いにも不満なのでしょう。私の機嫌がよい時を見計らうように偉そうにいいます。もう赤ちゃんじゃあないんだと……。

「でも、出来ないことがたくさんあつて、先生からお手紙が届ることよりは、話を行ひ来て、二桁の年齢になつたときの意味での対等で豊かな関係を確かなものにしていかなければなりません。マイナスを責めたり悲しんで、克服へのバネに出来るように、体の向きや、位置を入れ替えながら。

「そんなこと言つてんじゃんだから」。「だつて……」

「もういいよ！」

「そんなこと言つてんじゃんだから」。「だつて……」

「もういいよ！」

育ちゆく子らと 十

秋本 光代

くるでしよう？」

「そんなこと言つてんじゃんだから」。「だつて……」

「もういいよ！」

日常生活の中で、優しくいるのが怒るからと、マイナスを隠してしまうこともしばしばです。

「もういいよ！」

自立のための分離が始まつているんだと言われます。母の存在確認が、分離への不安を越えて未来への希望を付与してくれたとしたら、時宜にかなつた母との出会いだつたのでしょうか。私は、もつとも重く辛い思いの一回。いつまでも消化しきれない甘えを引きずりながら、五年生としてしつかりようと頑張つています。取り組み残した大きさをどんなに後悔しても九才是戻つてしまへん。これから滋の心を受けとめる努力をする事が滋への謝罪のように思えます。

三才から担当し、一桁の最後の年の九才真っ直中の將志は、長所短所も把握して、配慮を尽くしてきたつもりだつたのに、

まだくそぶつていたモヤモヤをかき消し、明るくなりました。

將志の家族関係は複雑な問題を含んでいても、ともかく母はいて、会いにきてくれたことは、もつとも重く辛い思いの一回。いつまでも消化しきれない甘えを引きずりながら、五年生としてしつかりしようと頑張つています。取り組み残した大きさをどんなに後悔しても九才是戻つてしまへん。これから滋の心を受けとめる努力をする事が滋への謝罪のように思えます。

三才から担当し、一桁の最後の年の九才真っ直中の將志は、長所短所も把握して、配慮を尽くしてきたつもりだつたのに、

私にとつては末っ子で、そんなに扱いにも不満なのでしょう。私の機嫌がよい時を見計らうように偉そうにいいます。もう赤ちゃんじゃあないんだと……。

「でも、出来ないことがたくさんあつて、先生からお手紙が届ることよりは、話を行ひ来て、二桁の年齢になつたときの意味での対等で豊かな関係を確かなものにしていかなければなりません。マイナスを責めたり悲しんで、克服へのバネに出来るように、体の向きや、位置を入れ替えながら。

「そんなこと言つてんじゃんだから」。「だつて……」

「もういいよ！」

「そんなこと言つてんじゃんだから」。「だつて……」

「もういいよ！」

谷本先生よりはお若い端正な面立ちの池端先生は、奥様に、下の山荘がいいよな。あそこ探している話を谷本先生は私たちは熱心に話された。

谷本先生よりはお若い端正な面立ちの池端先生は、奥様に、下の山荘がいいよな。あそこ探している話を谷本先生は私たちは熱心に話された。

谷本先生よりはお若い端正な面立ちの池端先生は、奥様に、下の山荘がいいよな。あそこ探している話を谷本先生は私たちは熱心に話された。

谷本先生よりはお若い端正な面立ちの池端先生は、奥様に、下の山荘がいいよな。あそこ探している話を谷本先生は私たちは熱心に話された。

谷本先生よりはお若い端正な面立ちの池端先生は、奥様に、下の山荘がいいよな。あそこ探している話を谷本先生は私たちは熱心に話された。

谷本先生よりはお若い端正な面立ちの池端先生は、奥様に、下の山荘がいいよな。あそこ探している話を谷本先生は私たちは熱心に話された。

谷本先生よりはお若い端正な面立ちの池端先生は、奥様に、下の山荘がいいよな。あそこ探している話を谷本先生は私たちは熱心に話された。

養護メモ 虫 37

関 係 その三

菅原 哲男

関 係 その三

十月一日

十一月三〇日まで

十月一日 宮代町の栗原さん つものお励まし、感謝。

四日 東京都立船形学園の職員 六名が館山市より研修に。共に学習と交歓の時を。

十六日 赤十字奉仕団大利根支部のみなさんが大勢で、草とり奉仕の半日に汗して下さった。手際よく整地も。感謝。

召しにふさわしく歩け

1992年1月1日 第40号

ひかりのこ

よりケーキをたくさん。おやつが豪華になつて！感謝。

ームあるいは自立援助ホームの展開を図るための調査研究事業の開始などを承認した。

反射光

明けましておめでとうございます☆この正月も

十一月一日 宮代町の栗原さん、事業開設以来六年有余、毎月一日に欠かさずにお励ましありがとうございます。

四日 第七回感謝の集い。福島

黙牧師の司式で、これまで与えられた全てを主に感謝する礼拝を捧げ、祝会は、汗ばむような晴天の園庭に溢れるご支援者の中から、開設以来お力添えの（株）タナカ社長田中作次様、江森誠次様、篠崎秀男様に感謝状と記念品を贈呈して法人、施設あげて感謝の意を表し、飯田進先生、江森藤男町長、青木正久代議士の祝福の言葉をお受けして開催。二百名に迫る参会者は、子どもたちの成長を確かめ、しと交歓の一時。たくさんのお友だちになつて。ありがとう！

二七日 アップルクラブとオーラドックセンターの方々来訪

二八日 江森ヘヤーサロンのご主人、いつもの散髪ご奉仕、淡々とそしてにこやかに。

三〇日 （株）文鳥より文房具をたくさん頂く。感謝。

○第二八回理事会。今年度の第一回補正予算案、地域児童福祉を展望するミニディ・本

二三日 青山学院キリスト教学生会のみなさん來訪。環境整備に汗。ありがとうございます！

二四日 岩槻教会より収穫祭の捧げものを。感謝して頂く。

二七日 劍友会の木場さんより衣類を。いつもありがとうございます。

二八・九日 アドヴェント・クリスマスやリースを作るために、遠く神奈川や静岡の山に樅の枝を求めて、夜遅くまで作業を。

こんな生活を今年も作れました。心から感謝して、よき年の祝福を祈り上げます（くら）

す☆この正月も殆どの子どもたちが、それぞれの家族の家へ帰省しました☆クリスマスがすみ、大掃除が始まることろ、毎年帰省している子どもたちは、もうすぐ帰ることを待ちにしだします☆どの子どもも施設で暮らすよりは、例えそれがどれだけ大変だったとしても、家族の許で一緒に暮らすことを願っています☆私たちは、どう逆立ちしても親にはなれない事実を具体的に思い知らされ季節です☆他方、帰りたくても帰れない子どもは、担当保母などとここでお正月を迎えました☆現在、養護施設でも勤務体制の見直しや合理化が叫ばれています。人間を合理的に効率よく養育する方法をまず示してから、行政や管理者たちはそれを進めるべきです☆子どもたちに職場であることを可能な限り感じさせない暮らしの場を創りたいと願つてきました☆そんな働きをこそ、責任ある者たちは保障すべきです☆子どもは職場では育たないので此から。（なお）